

# 国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。

岩手



岩手県にのへし二戸市

岩手北部森林管理署

二戸市は、岩手県北部の馬淵川まべちと安比川あつひの合流部に位置し、東には北上山系の折爪岳、西には奥羽山脈いなにわだけの稲庭岳が鎮座し、北は青森県境（三戸町・田子町）と接しています。

市の中心部にある九戸城跡は、豊臣秀吉天下統一の最後の合戦場であったことや、東北最古級の石垣が残っていること、奥州に見られる中世城郭の特色（九戸城）と、西国様式の近世城郭の特色（福岡城）、この2つの時代の城郭をここで見るができます。奥羽最後の激戦地にて、その戦禍を共にした九戸政実の哀涙は、詩人土井晩翠が書き残した「荒城の月」にも表されています。



国指定史跡 九戸城跡

温泉地でも有名な金田一温泉は、寛永3年（1626）に発見され、正徳2年（1712）に南部藩の指定湯治場となったことから「侍の湯」と呼ばれて親しまれてきました。「座敷わらし」の里としても



金田一温泉『おぼない旅館』

広く知られ、出会った人に幸運をもたらすと言われる「座敷わらし」の存在は、児童小説などの舞台にもなり、地域の子供から大人まで心の中に息づいています。

また、二戸市は、国産漆の生産量約8割を占める日本一の産地です。浄法寺漆じょうぼうしじうるしは、地元で浄法寺塗に使用されるほか、国宝や重要文化財の修復にも使用され、日光東照宮の陽明門や金閣寺の修復などに使用されてきました。現在の八幡平市から二戸市浄法寺へ続く安比川流域では、古くから木地づくり、漆掻き、漆塗りが生業として盛んに行われてきました。古来より人々の生活に深く関係してきた漆文化は、令和2年6月、文化庁により「“奥南部”漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が日本遺産に認定されました。



伝統的工芸品「浄法寺塗」

折爪岳はヒメボタルの生息地として県の天然記念物に指定（平成30年4月）されています。例年7月中旬の夜には、約100万匹のヒメボタルが明滅を織りなします。ミズナラ・ブナ林で幻想的な輝きを放つ「森の宝石」の様子は是非ご観賞ください。



ヒメボタルの里 折爪岳

お問合せ先：二戸市商工観光流通課 Tel.0195-43-3213